

平成25年度国立大雪青少年交流の家第2回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日時：平成25年8月22日（木）14:00～16:00

場所：美瑛町図書館研修室

運営委員出席者：大島委員（部会長）、山形委員、永澤委員、目黒委員、板東委員、角委員  
鈴木委員（浜田委員代理）

計7名

欠席者：植田委員、笠井会長（オブザーバー）

計2名

大雪青少年交流の家

出席者：三上所長、佐藤事業推進室長、佐々木企画指導専門職、伊藤企画指導専門職  
小川事業推進専門職、谷崎事業推進室主任、大畑事業推進室員、澤田総務係長

計8名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間・資料確認、欠席委員の報告、施設業務運営委員及び事業部会担当職員の自己紹介。

●事務局

議題の確認を行い、「ゆーすフェスタ2013」の概要について説明。

●事務局

初年度の事業は、500人程度の参加者であった。予算規模を考慮すると、感覚的に千人以上の参加者を確保しなければならない。このため様々な取り組みを行ったところである。基本的なコンセプトは「地域との協働」でとっていた。

○部会長

それでは、この基本的なコンセプトと目標値などについてご意見を伺いたい。

□委員

「ゆーすフェスタ2013」とは、お祭りみたいなものか。

●事務局

当初は、地域の方々に交流の家でさまざまな体験してもらい、楽しんでもらうことを目的としていた。

□委員

交流の家でやる理由はどこにあるのか。ビュッフェ体験は普段利用者に提供している食事を体験してもらうのか。

●事務局

フェスタ用として、昨年度は食堂業者に焼きそば、唐揚げなどを作ってもらい参加者への食事提供をした。また、上富良野自衛隊の炊き出しを行い、豚汁の提供をおこなった。普段の食事ではなく特別に準備した。去年の反省会で意見が出たが、ハイキング大雪のプログラムを実際に体験してもらってはどうかという意見も出た。

○部会長

交流の家の魅力の発信の場としてフェスタを実施すると、参加した子供達に浸透して今後子供達の体験の場としてつながることとなる。

●事務局

交流の家の特色として、体験活動のプログラムもそうだが、プールと温泉も施設の特色である。この特色についても解放している。

●事務局

昨年度までは、いかに多くの参加者を増やすかという目的のためにプログラムを考えていた部分が大きかった。交流の家の紹介やクラフト体験などのプログラムを、体験やプールの解放や温泉の解放も実施した。昨年度の反省会でも人数は集まったが施設としての特色が十分に伝えられたか疑問。本日は皆様方からどのように大雪の魅力を伝えたら良いか、情報の発信方法などを伺いたい。また、この事業のプログラムが今後交流の家の活動プログラムになる可能性もある。

○部会長

プログラムの内容については、後段で行う。交流の家の魅力を発信するために、地域との協働型ということについて検討したい。

□委員

美瑛町でも、すずらん大学や絵手紙や書道、舞踊などを行っている文化連盟がある。この方々が交流の家を使って展覧会を行うなど様々な活動をすることで地域の方々の協働という形になる。以前は、青年の家まつりというものが実施されていた。関係はあるのか。

●事務局

青年の家まつりが復活したものです。

○部会長

魅力の発信の内容については、地域の力を借りるとか一緒にやるとか、地域といっても広範囲な地域もある。いろいろな方法がある。また、プログラムの内容についても次の議題で検討することとなる。

昨年度までは、人集めを優先するというスタンスであったが、今年は交流の家で実施する事についての意味を持たせるという内容についてご意見を伺いたい。

□委員

どうゆう方々に来てもらうということを決めて、それからコンセプトを決めた方が良い。

たとえばユースという名前がついているが高齢者まで入れる。そのためにはどのようなコンセプトにするか。私の個人的な気持ちとしては、子供達だけではなく生涯学習という観点で、お年寄りや障がい者まで幅広い対象で実施してもよい。また文化的な内容も入れてもよい。ただ対象を幅広くした場合には、コンセプトが難しい。南富良野町では、子供からお年寄りまでバスで参加するという事も可能である。1泊2日で実施してはどうか。

□委員

現状の内訳はどのようになっているか。

●事務局

幼児・小学生の親子連れが多い状況である。1年目は参加者を確保するためバスで送迎を実施した。そのときは中学生の参加者もあったが、バスの乗車率が低く2年目からバスの送迎は見直した。その結果、中高生の参加率は低くなった。

●事務局

内容がアンパンマンショーなど、低学年を対象とした内容で、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にくる家族が多い。内容的に中・高生は非常に少ない状況。

●事務局

ほとんどが、アンパンマンショー目当てで来ていた。ほとんどが幼稚園・保育園に通う園児などである。プラスオープニングショーで行う幼稚園の保護者や子供達である。今までの対象は低年齢層であった。

□委員

その時間は親が子供を連れて、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に来て、終わったらみんなで帰るという状況ですね。

●事務局

アンパンマンも高額で80万～90万の支出となる。

●事務局

予算の大半がアンパンマンショーとなるが、人を呼ぶためアンパンマンショーを実施していた。皆さんが言われるよう、コンセプトはどこにあるのかを整理する必要がある。

□委員

資料にある、「タイケンジャーショー」と「早ね早おき朝ごはんショー」とは、どうゆうものか。

●事務局

「早ね早おき朝ごはんショー」と「タイケンジャーショー」については自前で実施する。「早ね早おき朝ごはんショー」については、やなせたかし先生がデザインしたキャラクターの着ぐるみを機構本部から借りて、「早ね早おき朝ごはん体操」を職員が着ぐるみの中に入って実施し、望ましい生活習慣の普及を行う。「タイケンジャーショー」は、北海道の青少年教育施設が考案したキャラクターで、北海道内の青少年教育施設が推進している体験活動の普及を行うためのショーを行う予定である。

□委員

具体的にはどのようなショーなのか。

●事務局

基本的には、「早ね早おき朝ごはん」という望ましい生活習慣の普及を図るための劇を行う。また、「タイケンジャーショー」については、体験活動を推進していく施設であるため、体験活動を推進していくための劇を考えている。

□東委員

どのような体験。

●事務局

クラフト体験も一つであるが、今子供達が、外での体験が非常に少なくなっていることが問題となっている。我々がきっかけ作りをできれば良いと考えている。具体的な劇の内容については、決定していない。

□委員

虫取り体験とか。

●事務局職

虫取り体験もよいと思います。

□委員

それでは、今年は圧倒的な集客する内容が無い中で、実施することになるのですね。

○部会長

子供達が来るので、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に来る。高齢者の方にも満足していただける自然環境などが交流の家にはある。今までもそうだが、基本的には幼児や小学生に特化した内容を意識した方が、機動力の面でもやりやすくなると思う。また、幼児とか小学生がゆくゆくは施設の楽しいイメージを持って帰れば、将来的にも利用につながる。このため、幼児・小学生のファミリーを対象にした方がよい。成人とか高齢者にも楽しんでもらえれば良いと思う。

□委員

動物園も基本的には、子供が小さい家庭の方々が基本的な対象としている。入場者になにを提供しようとしているかが重要。この時期であれば散策や落ち葉拾いなどいろいろある。呼べればいいじゃないかという、ただのお祭りになってしまう。親子の関わりを持ち、親子の会話をもってもらおうとか、なにかそういう仕掛けがあったほうが良い。他の動物園では外に向かっていえるような集客数を確保するために「アンパンマンショー」などを行っている動物園もある。旭山ではそういうものはやりたくない。当動物園のコンセプトにないので、実際にやっていない。交流の家でも、今までのものはどうなのかなと思っていたが、今回は「アンパンマンショー」に頼らず実施することは良いと。「アンパンマンショー」をやめ前年度、前々年度の参加者数を確保できればすごいことだ。しかし、かなり覚悟しなければならぬ。「アンパンマンショー」なしで目標達成するとするなら、何かを発信しないとだめだと。パンフレットを作って配付してもメッセージが無ければ人は来ない。「アンパンマンショー」みたいに何か引っかかるものが無ければ人は来ない。10月の非常に良い季節なので、なにか他にやるような気がする。

○部会長

それでは、目標値の設定について皆様のご意見を伺いたい。前年度、前々年度の数値の少し上積みという数値を設定したい。

□委員

前年度、前々年度の参加者数を見ると非常に多い人数が来場したと思う。森林管理署でも7月末にイベント実施したことがあるが、来場者数が伸びなかった。新聞に広告を出したり各方面に広報を行ったり、露店やバザーも行っても来場者数は千人か二千人であった。旭川の市内でもこのような数値だったので、交流の家で千人の来場者はすごいことだ。

○部会長

議題1全体で各委員ご意見はないか。

□委員

基本的な参加対象者は幼稚園や小学生ということは理解できる。また、経営者側としてもこれだけの予算をかけ、それなりの参加者を確保したいことも理解できる。実際問題として、交流の家の魅力出してくるとか特色を出してくるといことも大賛成である、しかし、集客の効果としてはかなりマイナスの影響が出てくるのはやむを得ないことだ。1,300人を目標に置くのであれば、今までの路線を踏襲しつつ、あと100人・200人をどうするかを考えなければならない。特色を出すということになると、かなり大胆に行わないと厳しい。地理的な問題もあるため、わざわざ交流の家まで来る理由が無ければならぬ。これが食べれる、これができるといったものが要だ。見るだけではなく、体験ができるという方が魅力がある。特色を出すということは賛成であるが、集客数についてはかなりの覚悟がないと厳しい。以前の動物園は子供を連れて行くという場所であったが、今の旭山動物園は行きたい場所だから、大人も行く場所になっている。旭山動物園も最初から順調ではなかった。かなり思い切った事をしなければ数も維持しつつ、コンセプトもしっかりしてということはかなり苦しい。

○部会長

このような事も踏まえながら、次の議題に入りたい。

議題2「ゆーすフェスタ2013」参画の具体

○部会長

最初に事務局から概要説明をお願いしたい。

●事務局

各委員が事業内容として具体的に何ができるのかということをご意見を伺いたい。

本部会の実施にあたり他の施設業務運営委員会からの提案された内容を資料に掲載している。

地域と協働という観点でご意見を頂きたい。

○部会長

本日欠席の委員からJA関連の内容があれば、該当部署に持ちかけて検討する事は可能との連絡が入っている。

私の立場として協力できる内容としては、市内に約100の幼稚園や保育園に対して広報することは可能である。また、幼稚園・保育園の園児達の塗り絵をさせることは可能であるので、それを会場に展示して保護者等に来場してもらうことは可能である。

□委員

会員700人規模の総合型スポーツクラブを行っているので、人気のある内容としては、低年齢からいくと、未就学児以下の子供とお母さんを対象にした「森の幼稚園」。小学生から高校生くらいになると「クライミング」も人気がある。ただクライミングボードが必要になる。交流の家に設備はないが、器具があれば簡単に設置することは可能である。年配の方には「ウォーキング（散策）」が人気がある。もう一つ人気があるのは、「うたごえ喫茶」も人気がある。これは60代から80代までの方々が楽しんでいる。キーボードやギターで伴奏するだけの簡単なもの。

○部会長

「森の幼稚園」の具体的な内容は。

委員

近くにブルーベリーを作っている所があるので、ブルーベリー摘みやジャムづくり、それをパンケーキにつけて食べるという内容。

部会長

「森の幼稚園」などは可能か。

委員

交流の家のスペースがあれば、なんでもできる。散策も白金のフィールドがあればかなりのコースができる。

事務局

先日「悠々の森」の協定を締結した。

委員

落ち葉のプールなど様々な事ができる。

事務局

木登りや、木にブランコをつけて遊ぶ事もできるか。

委員

国有林なので法律の範囲内ならば可能である。

委員

いまブースの事を考えているが、自然体験でいうと10人位の人を一時間くらいかけてツアーのようにつれて歩くということは可能か。

事務局

可能です。

委員

1時間位のコースと自由に散策できるコースを設定して解放してもよい。交流の家に来たからには、自然体験は外せない。また、食育という観点からパン作りやピザ作りも実施しても良い。人も呼べて、楽しくてという内容が良い。食べ物は人を呼べる。

部会長

大雪から各委員への要望はあるか。

事務局

森の中でコンサートができれば良い。自然体験というとアクティブなイメージだが、静かな森を楽しむという体験ができれば、新たな楽しみ方が広がり対象の幅も広がる。

委員

先ほど話した、民踊舞踊などは少し違うイメージになっていた。コンサートのことだが、町内にも音楽活動している人もいるし、美馬牛中学校では生徒がバンド活動している事もある。依頼すれば出演してくれる。また、美瑛高校の吹奏楽部も出演可能だ。展示部門でも、すずらん大学の大学紹介、書道や絵手紙の作品の展示も可能である。

町のスクールバスの運用については、不特定多数の方を乗せるのは運用上できないが、参加者のための送迎用として運用する事は可能。集客数の確保については、白金街道沿いにある青い池や不動の滝が人気で、観光客やホテルの宿泊者に周知して足を運んでもらうようにする、来場者数は増える。

大雪ビュッフェの内容についても、今までは特別食を提供していたが、通常の食事を提供してあ

りのままの交流の家の姿を見せた方がよい。

□委員

先ほど提案のあったコンサート場所，協定で締結した内容は森林と歩道なので実施できる広場が確保できるか疑問である。交流の家の近くでコンサートができる広場は，白金野営場が良い。展示部門では，大雪山系の自然に関する展示は可能である。

○部会長

他の委員からの追加意見はありますか。  
無いようですので，事務局側から何かありますか。

●事務局

当日を迎えるまでの広報が勝負になると思うので，各委員にはチラシ等の設置についてご協力をお願いしたい。また，どのくらいの数を置いていただけるかをご連絡いただきたい。

○部会長

広報の事は何も問題は無いですね。

□各委員

大丈夫です。なんの問題もありません。

□委員

せっかく広報するのだから，高校生が行かなければ何も意味がない。

○部会長

そのとおりだと思う。さっきから議論されている，交流の家の魅力というのは何かということになる。それは，「自然」「体験」ということを色濃く出すために何ができるかということになる。

●事務局

委員から先ほど「仕掛け」や「もっと伝わるものを発信する事が必要になってくる」と貴重なご意見を頂いているので，チラシの効果も大きいと思うので，何を発信するか等掲載する内容を考える必要がある。

●事務局

千人を超えた時の広報活動として，ライナーに掲載したことと，旭川市内の全幼稚園，保育園に2～3日前にチラシを配付したことが集客の要因。

○部会長

ライナーによる広報は基本的に全戸に配布されているため，よほどの事がないかぎり全市民に配付される。現在は新聞による広報よりもライナーによる広報の方が影響は大きい。  
職員から何か要望はあるか。

●事務局

体験を重視した「森の幼稚園」は非常に魅力的なプログラムだと思う。夏休み期間中もあり，ファミリーの利用が多い状況で，自然観察の活動内容が多い状況である。このため，森の専門家の方からの指導を受けることができれば，とても良い体験になる。

●事務局

委員からコンセプトを重視するためには，来場者数についてはかなりの覚悟が必要であるのご意見を頂き，担当者としては少しほっとしました。国立の施設として，広く国民に体験活動などを普及していくという使命を担っている以上，本日の会議に同席させていただき，今まで以上にしっかりとしたコンセプトを持ち，ターゲットにあったプログラムを提供していきながら，近隣の

住民の方々に施設を理解してもらいた。このためにも委員の方々のご協力を頂きたい。

●事務局

各委員の意見を伺い、改めて交流の家の魅力について考えさせられた。現在交流の家が持つ様々な設備・備品を有効に活用できるよう、新たな視点で考えることができた。

●事務局

人を集めるために交流の家として、何をアピールするかを改めて考えさせていただいた。入場者数の確保と交流の家のコンセプトの両立が非常に大きな課題と改めて実感した。交流の家を利用する子供達は、交流の家で初めてのいろいろな経験をする事。それらを踏まえてフェスタのプログラムに反映していき。

●事務局

入場者数とコンセプトの両立が重要だが、交流の家で体験できる自然を活かしたプログラムがあれば良い。

●事務局

昨年度までは来場者を集めるということを重視していたが、今年度から交流の家の魅力をアピールすることとなった。所長から今年度は「アンパンマンショー」は止めるという判断を頂いたが、来場者数の確保は大きな懸案であったが、各委員の方々が非常に心強い御意見と考えを頂き感謝申し上げます。私どもも皆様のご期待に添えるようフェスタを成功させていただきたい。

○部会長

各委員から、全体をとおして言い忘れたことなどがあればご発言願います。

□委員

高校生の立場からどのような事ができるか考えていた。高校では、ダンスの同好会があるので出演する事では協力できる。また、どの学校にもあるがボランティアなどでも、協力する事はできると思う。資料で気になったのが、写真に関する事で、ただ展示するのではなく交流の家周辺のフィールドを使った撮影会などを行ってはどうか。数は多くないが、愛好家はいるので軽めのコンペなどの企画も良い。また、一人の保護者として発言させていただければ、食べ物と体を動かすことが良い。交流の家周辺の2～3kmのコースを使って、親子マラソンやウォーキングを行っても良い。

□委員

子供が一緒に来て、楽しい内容なら人は集まる。宣伝をうまく行えば人は来る。美瑛町民に対する広報として、広報誌に入れることも小・中学校や幼稚園・保育園に配付する事も協力できる。

□委員

広報の仕方が非常に大きな要因になる。幼稚園の子供が「アンパンマンショー」を見て行きたいと言えば親は連れて行く。子供が見に行きたいと思う内容と親が連れて行きたいという内容を子供の目線と親の目線で考える必要がある。事業評価についても費用対効果を考えると1300人を目指すということだが、今回は新たなコンセプトを立てるということなので、このコンセプトに基づく訂正的な数値として、満足度もあわせて見ていき、数だけではないことを強調し評価してはどうか。いずれにしても交流の家の魅力を根底に置いて欲しい。

□委員

基本的には交流の家の魅力を知ってもらいリピーターになってもらえば良い。そのためにも交流の家の魅力をコンセプトにしたプログラムにすると良い。



町民会員700人にも広報を行う。我々の希望としては前泊を希望するので、前夜祭的なものもあると良い。楽しいプログラムがあれば良い。

□委員

ようやく交流の家の原点に戻ったのかなと思う。やはり広報は難しいと思う。昨年度までのチラシを見ても交流の家のコンセプトらしいものが見えない。このチラシに書いてあるものの中で、何が勝負という事になる。ちらし一つのデザインも勝負になる。あと、教室的なものもあると良い。数よりも満足度も評価する方がよい。

□委員

周辺の遊歩道の利用については問題ないので、国有林の使用についてはできるだけ協力したい。

●事務局

各委員から貴重な意見を頂いたと同時に、各委員の方々のそれぞれの立場へも何らかの還元をさせていただけよう考えている。また、事業までに様々なアイデアが出ましたら、電話一本で結構ですのでご連絡を頂きたい。

○部会長

これからも、協働型という私たち委員と施設の方々が一緒になって作り上げていく。慣れていない中で、共にやっていきたい。

会議終了

閉会挨拶

閉会宣言